

宜 産 第 1 5 4 号  
平成 2 3 年 5 月 1 0 日

沖縄県水産課長 殿

宜野座村産業振興課長  
( 公印省略 )

平成 23 年度離島漁業再生支援交付金の実施状況の公表について

依頼のあったみだしのことについて、別紙のとおり提出します。

## 別添参考様式 1

### 離島漁業再生支援交付金による取組概要

#### 1. 集落協定の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：宜野座村

協定締結集落名：松田・宜野座・漢那集落

交付金額：3,944千円

協定参加世帯数：78世帯（うち漁業世帯29世帯）

#### 2. 協定締結の経緯

本村は、集落ごとの結束や連帯意識が非常に強い地域である反面、集落を越えた協業・協働意識が希薄な傾向にある。その中で、漁業を取り巻く環境は、資源の減少による漁獲量の低迷や漁業就業者の高齢化等の課題を抱えている中で、水産資源の効率的な利用や漁業者の連帯意識の向上を図り、漁業活動が継続的に取り組める環境を整える必要があることから、松田・宜野座集落・漢那集落は集落協定を締結し、共同で離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むことにした。

#### 3. 取組の内容

##### ①漁場の生産力の向上に関する取組状況

###### ・種苗放流

本村の沿岸には多くのホンダワラが生息し良好な藻場を有しており、以前からウニ漁が盛んに行われている。しかしながら年々その数が減少傾向にあるため、沖合約500mの良好な藻場に稚ウニ29,000個、幼生ウニ300,000個を放流した。

###### ・海岸清掃

宜野座海岸周辺ではモズクの養殖が行われており、良好な漁場及び海岸の保全を図るため11月20日、32人が参加し宜野座漁港周辺を中心に漂着ゴミや不法投棄ゴミの撤去、草刈り等を行った。

###### ・漁場監視

魚や貝、ウニの密漁を防ぐために、海上からの船舶による監視及び陸上からの巡回を計6回行った。また、住民等に対して周知を図るため、密漁防止の看板5基を設置した。

- ・低・未利用資源の活用

宜野座村の海域にはホンダワラ類が茂る豊かなガラモ場があり、この資源を調査研究してみた結果、他県ではヒジキや昆布のように食用されていることがわかったので、本村でもホンダワラ類の有効な利活用を目的に調査研究を行った。

## ②集落の創意工夫を活かした新たな取組状況

- ・体験漁業

海人との漁業体験を通して漁業への興味を深め、さらには漁業後継者の育成と魚食の普及拡大を図る。また漁船での海上漁場見学（遊覧）により、海資源の大切さや現状を理解してもらうとともに、観光漁業への多角経営を目的に、3月20日に刺網漁業体験、3月24・25日の2日間開催された村産業まつりにおいて、海上漁場見学（遊覧）を実施した。

- ・販路拡大PR

消費者に魚食の普及と地元で水揚げされた水産物の地産地消を推進し、販路拡大に繋げるため、3月24、25日の2日間開催された村産業まつりの会場において、マグロ解体ショー、モズク流し及び地元水産物の無料配付を行った。

## 4. 取組の成果

- ・種苗放流

稚ウニ、幼生ウニを放流することで資源の回復が図られ、安定した収穫を見込むことが出来る。次年度以降も継続して実施し、収穫規制等も検討し、自然増殖できる環境づくりを進めていく。

- ・海岸清掃

海辺のゴミ・流木等の除去により、満潮時の出漁に対する不安が払拭され、船舶航行の安全確保が図られたほか、モズク養殖場の環境保全が図られた。さらには、構成員の海岸環境の美化・保全意識への涵養が図られた。

- ・漁場監視

海上及び陸上からの監視、密漁防止の看板の効果もあり、6回の漁場監視では密漁は発見されなかった。また、今後も漁場の生産力の向上と、23年度は稚ウニ、幼生ウニを大量に放流したため、引き続き漁場監視を行っていく。

- ・低、未利用資源の活用

調査により、本村海域での生息状況、ホンダワラの成分や効能等の分析結

果により、加工食品としての開発の可能性が期待できたことから、今回は、ホンダワラの抽出液を利用して、沖縄のソウルフードでもある「沖縄そば」の麺を試作し、3月24、25日に行われた村産業まつりの会場において無料で試食会を実施した。その結果、味・食感等においてかなり好評を得られたため、引き続き商品化に向けて取り組むとともに、他の利活用も含め「宜野座ブランド」の確立を目指していく。

- ・体験漁業

小学生高学年から中学生が多数参加し、海人との刺網引き揚げ体験を通して、地元の豊かな自然や漁業、海人への関心が高まった。後継者育成や消費拡大につながるものと期待する。また、村産業まつりの漁船による海上漁場見学（遊覧）も今後の観光漁業への可能性を感じた。

- ・販路拡大

村産業まつりとタイアップしたことで、村内外の多くの消費者に地元で水揚げされた水産物の地産地消を推進することができた。マグロの解体ショーやモズク流しの無料試食では、子供からお年寄りまで大勢の客が楽しみ、今後の消費拡大が期待できた。

平成23年度 離島漁業再生支援交付金 実施状況

市町村名 | 宜野座村

1 集落協定締結数		協定締結集落名				合計
		一般・特認の別				
		協定を策定した漁業集落数※ ①	3			
		協定参加世帯数				
		うち漁業世帯数				
		交付対象漁業集落数※ ②	3			
		実施集落率 ①/②%	100%			
2 集落協定に位置づけられた活動内容	漁場の生産力の向上に関する取組		3			
		種苗放流	○			
		漁場の管理・改善				
		産卵場・育成場の整備				
		水質維持改善				
		植樹、魚付き林の整備				
		海岸清掃	○			
		海底清掃				
		漁場監視	○			
		その他				
	創意工夫を活かした取組		3			
		新たな漁具・漁法の導入				
		新規漁業への着業				
		新規養殖業への着業				
		協業化による経営収支の改善・安全性の向上				
		低・未利用資源の活用	○			
		品質の均一化に向けた取組				
		高付加価値化				
		流通体制改善				
		簡易加工				
	海洋レジャーへの取組					
	伝統漁法の取組					
	漁労技術の向上の取組					
	販路拡大	○				
	その他(体験漁業)	○				
3 交付金額とその使用方法(単位 千円)	交付金額(千円)		3944			
	うち前年度からの繰越額		0			
	集落協定の管理体制における担当者の報酬		20			
	交付事務の委託料		372			
	話し合い・備品に関する経費		0			
	漁場の生産力の向上に関する取組に要した経費		2064			
		種苗放流	447			
		漁場の管理・改善	0			
		産卵場・育成場の整備	0			
		水質維持改善	0			
		植樹、魚付き林の整備	0			
		海岸清掃	19			
		海底清掃	0			
		漁場監視	883			
		その他(イベントの開催)	715			
創意工夫を活かした取組に要した経費		1488				
その他雑費		0				
繰越額		0				

※ 「漁業集落数」とは、漁港を核として、当該漁港の利用関係にある漁業世帯の居住する範囲を、社会生活面の一体性に基づいて区切った範囲のうち、漁業世帯が4戸以上存在するものを計上する。(2003年(第11次)漁業センサスに準拠)

◆種苗放流①



◆種苗放流②



◆海岸清掃①



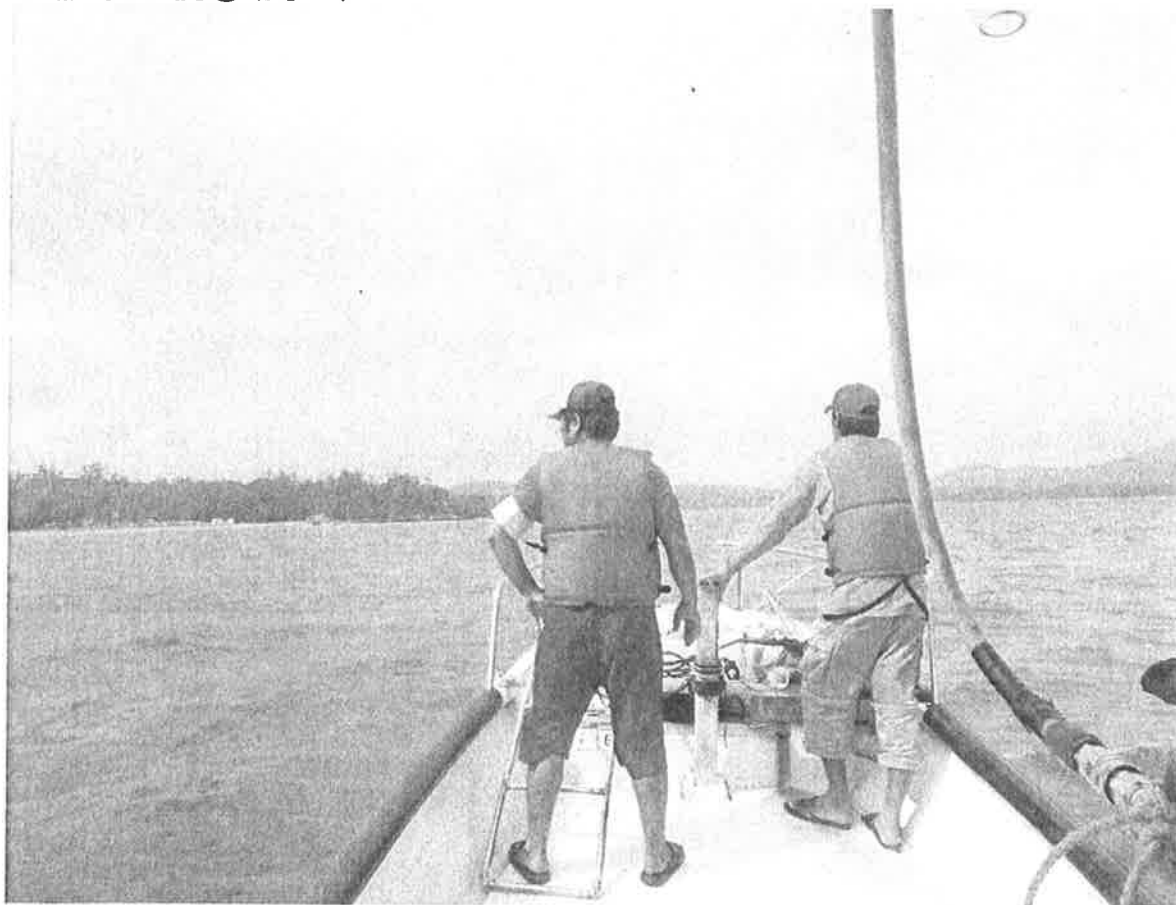
◆海岸清掃②



◆漁場監視①(陸上)



◆漁場監視②(海上)





◆ホンダワラ麺試作



◆ホンダワラ麺無料試食会(産業まつり)



◆販路拡大(産業まつり・まぐろ解体ショー)



◆販路拡大(産業まつり・もずく流し)



◆海上漁場見学(遊覧)



◆体験漁業(刺し網)

